

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 武蔵野大学

1 事業の趣旨・目的

「生活者としての外国人」は「仕事をする外国人」であることも多い。そこで、「仕事をする外国人」の仕事の現場で使用する日本語のサポート、ならびに、日本の職場事情の紹介相手として、「仕事をする外国人」の仕事上の悩みも聞きながらサポートするボランティア人材の養成を目的とする。

武蔵野大学のビジネス日本語教育の知識と経験を生かした「仕事の日本語」の指導ができるボランティア育成を図る研修講座としていく。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
9月29日	武蔵野大学構内	堀井 恵子、 種村 政男、 稲谷いく子	①今後の開講場所について ②使用教材について	①教室変更の確認 ②開講日初日、継続して使用する物品の確認
12月1日	武蔵野大学構内	堀井 恵子、 種村 政男、 稲谷いく子	①講座講義内容の確認 ②受講者の様子	①教材作成について→受講者が少ないので、個人で作成をしてもらう。いずれは、班ごとで合作。 ②受講者の現時点でのボランティア活動についての確認
2月26日	武蔵野大学構内	堀井 恵子、 種村 政男、 村澤 慶昭	①講座報告書のまとめについて ②講座の振り返り ③講座終了時アンケートについて ④来年度について	①3月10日までに報告書を作成。 ②サポート経験に差があり、レベル設定に苦心した。 ③途中から、2名が欠席したものの、最終日出席者より、全員分回収できた。 ④大学は、交通の便が不便

				なので、できれば、駅前の三鷹サテライト教室にての開講を希望。
--	--	--	--	--------------------------------

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 「仕事をする外国人をサポートするためのボランティア講座」
- (2) 研修の目標 地域における「仕事の日本語」を指導するボランティアを養成し、生活者としての外国人の自立を支える
- (3) 受講者の総数 7 人
- (4) 開催時間数(回数) 60 時間 (24 回)
- (5) 参加対象者の要件 原則としてボランティアとしての日本語指導経験2年以上
仕事の経験のある者
- (6) 受講者の募集方法 ○大学ホームページに募集内容掲載
○区・市の役所、教育委員会、図書館、文化センター等に募集
チラシを郵送し広報依頼
○武蔵野市近隣の区・市役所、教育委員会に直接訪問し関係団
体に広報を依頼。
○8/30 朝日新聞、読売新聞折込
- (7) 研修会場
ア 講義 武蔵野大学構内
イ 実習 武蔵野大学構内
- (8) 使用した教材・リソース
○オリジナルプリント
○凡人社『日本語教育への扉』堀井恵子著

平成20年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

仕事をする外国人を サポートするためのボランティア講座

ボランティアを対象とした実践的長期研修

あなたの仕事経験を生かしませんか？

生活者としての外国人の自立を支えるための、
地域における「仕事の日本語」を指導するボランティアを養成します。

募集要項

- 期 間 ▶ 平成21年10月6日(火)～平成22年2月26日(金)
場 所 ▶ 武蔵野大学構内
受 講 料 ▶ 無料
応募資格 ▶ ボランティアとしての日本語指導経験 2 年以上の方
仕事の経験のあるシニア
募集定員 ▶ 20 名
※ 書類選考があります。

申込期間 ▶ 平成21年 8月18日(火)～9月15日(火)

申込方法 ▶ 下記問い合わせ先までお電話、FAX または E メールにてご連絡ください。
※ 不明な点やお申し込みにあたっての相談等も、お気軽にお問い合わせください。

詳しくは武蔵野大学ホームページをご覧ください。

裏面もご覧ください。



武蔵野大学
MUSASHINO UNIVERSITY

—Linking Thinking—

お問い合わせ Tel 042-488-2222
Fax 042-488-3211
Eメール nihongo@musashino-u.ac.jp
武蔵野大学 社会連携センター
〒162-8601 東京都武蔵野市吉祥寺1-1-1
www.musashino-u.ac.jp

平成21年10月開講 「仕事をする外国人をサポートするためのボランティア講座」 概要

Curriculum カリキュラム

講義 ワークショップ	週 1 回 火曜日 10:30 ~ 12:00 (平成21年10月6日~平成22年2月26日)
実習 (集中講義)	○集中講義 (8回) 9:30 ~ 15:00 (途中休憩時間あり) (平成22年2月16~19日、23~26日)

Program プログラム

	日 程	概 要
講 義 (90分×2コマ)	平成21年10月 6日	オリエンテーション 仕事をする外国人の現状と多文化共生社会 (90分×1コマ)
	平成22年 2月 9日	サポート実習の事前学習 (90分×1コマ)
ワークショップ (90分×14コマ)	平成21年10月13日、20日	仕事をする外国人の現状、ケーススタディ (90分×2コマ)
	平成21年10月27日 ~ 平成22年 1月19日	仕事をする外国人の現状 仕事をする外国人のための日本語教育 仕事をする外国人のための日本語教材 (90分×10コマ) ビジネス日本語教育の基礎 ビジネス日本語の基礎知識、ビジネス日本語教育の基礎知識、 ビジネス日本語のサポート方法など
	平成22年 1月26日 2月 2日	仕事をする外国人をサポートするための 異文化コミュニケーション (90分×2コマ)
実 習 (集中講義)	平成22年 2月16日~26日	サポート実習とその振り返り 実際の外国人にサポート実習をし、改善のための振り返りの仕方を考える



武蔵野大学
MUSASHINO UNIVERSITY

—Linking Thinking—

お問い合わせ Tel 042-468-3222
月~金曜日 Fax 042-468-3211
(9:00~19:00 土日祝日を除く) e-mail nihongo@musashino-u.ac.jp
武蔵野大学 社会連携センター
〒202-8586 東京都西東京市新町1-1-20
www.musashino-u.ac.jp

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月6日 10:40～12:10	1.多文化共生社会と日本 2.外国人児童に対する日本語教育の現状	武蔵野大学教授 堀井 恵子	6名
10月13日 10:40～12:10	1.多文化共生社会とは 2.仕事をする外国人の現状 3.外国人労働者	NPO 法人・西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村 政男	6名
10月20日 10:40～12:10	1.外国人児童に対する日本語教育の基礎知識 2.日本語教授法、教材作成に向けて 3.現場のお話「倉松淳子さんのお話」	武蔵野大学教授 堀井 恵子	5名
10月27日 10:40～12:10	1. 仕事をする外国人に対する日本語教育 2. 日本語教授法：形容詞 3. 教材作成：「リソース型生活日本語」を例として 4. まとめ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	4名
11月10日 10:40～12:10	1.外国人児童に対する日本語教 2.育の基礎知識 3.日本語教授法、教材作成に向けて 4.現場のお話「王慧瑾先生のお話」	武蔵野大学教授 堀井 恵子	4名
11月17日 10:40～12:10	1.教材研究「BJT テスト」 2.日本語教授法「動詞」 3.教材作成へのヒント	NPO 法人・西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村 政男	4名
11月24日 10:40～12:10	1.働く外国人の現状 2. 日本語教授法：副詞 3. 教材作成：『にほんご宝船』を例として 4. まとめ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	4名

12月1日 10:40～12:10	1.日本語教授法コーナー 2.外国人児童に対する多読の 試み 3.現場のお話「栗野真紀子先 生のお話」	武蔵野大学教授 堀井 恵子	4名
12月8日 10:40～12:10	1.教材作りのヒント 2.日本語教授法コーナー 3.教材作成コーナー	NPO 法人・西東京市多文化 共生・国際交流センター理事 種村 政男	4名
12月15日 10:40～12:10	1.日本語教授法:アспект 2.教材作成:グループ活動 3 回目 3.まとめ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	4名
12月22日 10:40～12:10	1.作成教材プレゼンテーション 2.日本語教授法・モダリティー	武蔵野大学教授 堀井 恵子	4名
1月12日 10:40～12:10	1.日本語教授法コーナー 2.教材作成コーナー	NPO 法人・西東京市多文化 共生・国際交流センター理事 種村 政男	4名
1月19日 10:40～12:10	1.日本語教授法:複文 2.教材作成:グループ活動 6 回目 3.まとめ	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	4名
1月26日 10:40～12:10	1.異文化コミュニケーション 2.教材作成コーナー	NPO 法人・西東京市多文化 共生・国際交流センター理事 種村 政男	4名
2月2日 10:40～12:10	発表会	武蔵野大学教授 堀井 恵子	4名
2月9日 10:40～12:10	実習(集中授業)・講座のまとめ	武蔵野大学教授 堀井 恵子	4名
2月16日 10:40～16:10	1.サポート活動にあたって 2.サポート実習 3.実習の振り返り	西東京市多文化共生・国際 交流センター理事 種村 政男	4名

2月17日 10:40～16:10	サポート実習とその振り返り1期 ②	武蔵野大学大学院准教授 村澤 慶昭	3名
2月18日 10:40～16:10	サポート実習とその振り返り1期 ③	武蔵野大学大学院准教授 村澤 慶昭	3名
2月19日 10:40～16:10	サポート実習とその振り返り1期 ④	武蔵野大学大学院准教授 村澤 慶昭	3名
2月23日 10:40～16:10	サポート実習とその振り返り2期 ①	武蔵野大学大学院准教授 村澤 慶昭	4名
2月24日 10:40～16:10	サポート実習とその振り返り2期 ②	武蔵野大学大学院准教授 村澤 慶昭	3名
2月25日 10:40～16:10	サポート実習とその振り返り2期 ③	武蔵野大学大学院准教授 村澤 慶昭	4名
2月26日 10:40～16:10	サポート実習とまとめ	武蔵野大学教授 堀井 恵子	4名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

参加者アンケートを実施したところ4名から回答が寄せられた。

講座の目的としてあげた①多文化共生社会、②仕事をする外国人の現状、③日本語教育の基礎知識についても、おおむね理解が深まったと回答している。特に実習の講座で外国人協力者とコミュニケーションできたことについて、大変良かったと回答をしている。

② 実施主体からの研修内容結果評価

多彩な、また、熱心な受講者であったことから、こちらの想定以上の成果が出たと思われる。「助けてあげる、教えてあげる」から「共に成長する」という視点への転換はビジネスで活躍された方だけにかえって難しいことでもあったようだが、実習で実感的につかんだものがあるように思う。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・受講者からの希望でもある ML のネットワークを作り、受講者が個々ではなく、つながりを持って歩んでいけるよう支援する。
- ・ネットワークを作ることにより、外国人支援情報を共有し、希望者がボランティアの現場で活動できるような体制を構築する。
- ・仕事予備軍である武蔵野大学大学院ビジネス日本語コースの留学生に対するサポートを検討する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

武蔵野市国際交流協会、西東京市多文化共生・国際交流センターを中心に、地域のボランティア協会等と連携し、相互の情報交換により、今回の受講者がよりレベルアップができ、外国人をサポートできる機会が得られるような環境を作っていきたい。

② 研修後の人材活用

- ・武蔵野市国際交流協会、西東京市多文化共生・国際交流センターを中心に、地域のボランティア協会等と連携することにより、今回の受講者が外国人をサポートするボランティアとして活動できるよう支援していきたい。
- ・仕事予備軍である本学大学院ビジネス日本語コースの留学生に対するサポーターとして、今回の修了生を活用することを検討したい。

(12) 今後の課題

講義・教材作成・作成教材のプレゼンテーション・サポート実習という講座構成は自律的サポーターへの気づきを促すことにつながったと思われる。しかし、高いレベルのサポーターに求められているのは、外国人に対し“教え込む”ではなく、支える“サポートのあり方を理解し少しでも身につけた人が多くなる”には、さらに経験と時間が必要と感じられる。